

「第6回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成 27 年 1 月

産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 真 (京都大学名誉教授)
代表：井佐原 均 (豊橋技術科学大学)
辻井 潤一 (マイクロソフトリサーチ アジア研究所)
橋田 浩一 (東京大学)
隅田 英一郎 (情報通信研究機構)
横井 俊夫 (日本特許情報機構 特許情報研究所)
潮田 明 (元奈良先端科学技術大学院大学)
河合 弘明 (日本特許情報機構)

開催趣旨：

日本語を見つめ直し、今後の産業日本語を考える

市場のグローバル化を背景に、日本企業の海外展開が進み、それに伴い、グローバルな活用場面を想定した産業技術文書(特許明細書、論文、説明書、報告書など)は、正確かつ円滑な情報発信力と知的生産性の向上による国際競争力強化のために、これまでも増して強く求められているところです。また昨今、新興国ビジネスの拡大や訪日外国人観光客の急増、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の開催準備など、我が国産業界において、言語処理技術が重要な役割を担うものと期待されています。

「産業日本語研究会」では、以上のような背景のもと、「産業日本語」に関する各種の研究や提言などに取り組み、我が国産業界全体の国際競争力の強化に資する日本語の枠組みのあり方について継続的に議論しています。ここで「産業日本語」とは、情報を正確かつ円滑に伝達できるような情報発信力の強化、そして、コンピュータ処理されやすいような知的生産性の向上に資する産業や科学技術の記述に用いられるべき日本語の枠組みと定義しています。

また、平成22年より毎年開催している「産業日本語研究会・シンポジウム」では、特許、法令工学、翻訳、テクニカルコミュニケーション、システム開発など多分野にわたって、日本語を分かりやすく用いるための取組などが紹介され、その取組を発展させることの重要性も議論されてきました。

本年の「第6回産業日本語研究会・シンポジウム」では、日本語に関する取組や研究について一層の発展を目指すべく、様々な角度・視点から日本語を見つめ直しつつ、今後の産業日本語のあり方について議論する場をご提供したいと考えております。今回のプログラムでは、言語処理分野の若手研究者から産業への応用研究をご紹介いただくほか、有識者によるパネル討論を加えました。

産業日本語に関わる研究の新たなステップにつなげ、我が国産業に大いに貢献できる機会になると期待しております。多くの皆さまのご参加を、よろしく願いいたします。